

経営計画2021の推進と 「下水道展'24東京」



東京都公営企業管理者 下水道局長

佐々木 健

Sasaki Ken

東京の下水道は、明治17年の神田下水の建設に始まり、そこから今日に至るまで140年の長い歴史を刻んでいます。この間、震災や戦災など、多くの困難にも直面しましたが、東京の下水道整備は高度経済成長期以降に大きく進み、区部では、平成6年度に下水道普及率の100%概成を達成しました。長きにわたり、東京の基幹インフラとして、24時間365日休むことなく、首都東京の都市活動と都民生活を支え続けています。

一方で、時代の変化に伴い、現在の下水道事業は多岐にわたる課題が顕在化してきています。例えば、老朽化等に伴う施設の更新需要への対応、気候変動に伴い局地的に発生する豪雨、首都直下地震への対応のほか、エネルギー使用量や温室効果ガスの削減などであり、これらの課題解決に向けて、着実に取り組んでいかなければなりません。

「経営計画2021」の推進

東京都下水道局では、長期的な視点に立って下水道サービスのさらなる向上を図るため、令和3年3月に令和7年度までの5年間の事業運営の指針となる「経営計画2021」を策定し、3つの経営方針「お客さまの安全を守り、安心して快適な生活を支える」、「良好な水環境と環境負荷の少ない都市の実現に貢献する」、「最少の経費で最良のサービスを安定的に提供する」のもと、浸水対策や震災対策、エネルギー・地球温暖化対策など、様々な施策を推進しています。

浸水対策では早期に浸水被害を軽減するため、浸水の危険性が高い地区に重点化し、施設の整備を進めています。これまで着実に事業を進める一方で、近年は全国各地で浸水被害が多発しており、さらなる対策の強化が求められていることから、これまで以上に長期的な視点で戦略的に浸水対策を推進するため、令和4年3月に「下水道浸水対策計画2022」を策定し、目標整備水準のレベルアップや新たな重点地区の選定などを打ち出して対策を強化しています。

また昨年12月には、東京都における総合的な治水対策の強化を図るべく、「東京都豪雨対策基本方針」を改定しました。同方針では気候変動に伴う1.1倍の降

雨量への対応を政策目標として掲げており、今後関係各局と連携して対策を進めてまいります。

震災対策では、下水道機能を確保する取り組みとして避難所や災害復旧拠点、一時滞在施設などを対象に、これらの施設から排水を受け入れる下水道管とマンホールの接続部の耐震化などを進めています。また、緊急輸送道路などの交通機能を確保する取り組みとして、地盤の液状化現象によるマンホールの浮上抑制対策を進めています。水再生センターやポンプ所では、揚水機能など最低限の下水道機能に加えて、汚泥処理施設や水処理施設の流入きよなどの施設も対象として耐震化や非常用発電設備の整備などを推進しています。

また、本年1月1日に発生した能登半島地震は下水道施設にも甚大な被害をもたらした。当局からも輪島市に職員を派遣して早期の復旧・復興に向けた支援を行っておりますが、今回の地震による被害状況の検証も踏まえて、今後の震災対策の強化を検討してまいります。

エネルギー・地球温暖化対策では、令和5年3月に新たな地球温暖化防止計画「アースプラン2023」を策定しました。2030年カーボンハーフおよび2050年ゼロエミッションの実現に向けて、徹底した省エネルギーや再生可能エネルギーの活用、新たな技術の開発・導入などを一体的に推進してまいります。

このほか、老朽化施設の再構築や合流式下水道の改善、処理水質の向上などの主要施策にも引き続き着実に取り組んでいきます。

「下水道展'24東京」の開催に当たって

今年下水道展は、7月30日から8月2日まで、江東区有明の東京ビッグサイトで開催されます。ここでは、下水道界をリードする企業や団体が日頃から創意工夫を重ねて技術開発に取り組んできた成果として、

様々な分野の最新技術や機器、サービス等を、映像やパネルのみならず実機を用いたデモンストレーションにより紹介することで、相互の情報交換や交流の場となることが期待されます。

当局の出展ブースにおいては、新たに開発・導入された技術やDXにより業務改善した事例などをパネルや映像等を用いて解説します。加えて、夏休み中というタイミングを活かし、これからの未来を担う子供たちに、普段は目にする機会の少ない下水道の存在や重要性を理解してもらえよう、体験型の催し物なども用意するとともに都内小学校に下水道展の開催をPRしています。また、昨年度実施した「下水道グラフィックデザインコンテスト」の入賞作品の展示やマンホールカードの配布などを通じて、下水道の魅力を積極的に発信していきます。

あわせて、B-DASHプロジェクトにより本年1月に稼働した、下水汚泥中のりんを回収して肥料利用する技術の実証を行う「りん回収・肥料化施設（砂町水再生センター）」等を見学できる、テクニカルツアーも開催する予定です。

下水道事業に携わる様々な団体の創意工夫や成果が集結する下水道展へのご来場を、心よりお待ちしております。

最後に、日本下水道新技術機構におかれましては、これまで、全国各地の下水道事業者が直面する課題に果敢に挑戦し、これらを解決に導く新技術の開発や、新たな制度設計につながる調査研究に取り組まれています。また、近年は開発した技術の適用性などの評価や、さらなる技術向上を視野に入れた取り組みも進められています。長年にわたる幅広い活動に、敬意を表します。今後とも、時代の変化とともに発生する新たな課題の解決に向け、産・学・官の知識と経験を結集し、下水道界の発展にお力添えをいただきますようお願いいたします。